

(別紙2-1)

## 1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 27年 1月 30日

### 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4271402143		
法人名	有限会社 みずほ福祉サービス		
事業所名	グループホーム「みずほ野」		
所在地	長崎県雲仙市瑞穂町西郷己797番地		
自己評価作成日	平成27年12月21日	評価結果市町受理日	平成27年2月16日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先 URL	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/42/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/42/index.php</a>
--------------	---

### 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構
所在地	長崎県島原市南柏野町 3118-1
訪問調査日	平成27年1月16日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

自然に恵まれた当事業所は環境に溶け込む外観を備えている。事業主が造園業も営んでいるため自然を活かした造作がなされている。自然の持つ癒しの部分と介護のマンパワーを融合させたサービスを理想としている。

利用者がデッキにて滝の水音を愉しんだりできる庭園、露天風呂の他、畑には四季の野菜を育てて収穫する楽しさと、マンパワーの人の痛みがわかる心を持った職員の育成とケアの均一化に努めている。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

山間部の閑静な地に、季節の移ろいやゆったりとした雰囲気の中で寛いで過ごすことができる当概事業所は、開設11年目を迎え長年福祉職に従事して来られた管理者のもと、職員の安定した介護力と観察力で入居者の暮らしを親身になってサポートされている。なかでも入居者の残存機能を生かし、職員より日常生活の中で積極的に体を動かす声かけや支援を取り入れていることは入居者主体の生活援助への実践に繋がっており、日々の入所者の笑顔からも日常生活動作の改善ができたことへの自信や、自己実現ができることでホームが入居者にとっての安らぎの場となっている様子も窺うことができる。「入居者も職員も幸せに、快適にすごせる施設」をスローガンに掲げ職員間で理念の共有をし、常に自分の身に置き換えながら入居者や家族の気持ちに寄り添った支援を実践されている、暖かみを感じられるホームである。

## 1 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I 理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「入居者も職員も幸せに、快適に過ごせる施設」を目標に自分の身内を入居してもらえグループホーム作りをスタッフ全員と確認しあっている。	ホームのスローガンに添って常に振り返りを行い、意識の持ち方や方向性にずれが生じた場合はお互いに注意し、入居者が安心して生活できるよう職員間で共有し実践に繋げている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	住宅街とは言えない環境だが普段通られる方への挨拶、施設行事の地域自治会への声かけ、逆に地域自治会からの声かけにも協力している。	自治会への加入や、地域の祭りや行事に入居者と共に参加したり、地域の青年団活動の受け入れを行う等、地域浸透に積極的に努力されている。地域より介護の相談もあり、専門性を生かした助言を行うことでその方の安心した生活に繋がるなど地域貢献もされている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地区の小中学校の福祉体験学習の受け入れや地元老人会の慰問、相談等受けている。			
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の頻度で参加メンバーと会議を行っている。	推進会議では雰囲気作りを工夫し、活動内容や利用状況について忌憚ない意見を頂きながらサービスの向上に活かされている。今年度は消防署職員に会議への参加協力を得、消防訓練を振り返りながら避難状況に対する地域理解を図った。		
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	入居者の中で公的制度を利用されている方がおられるので相談、連絡等で福祉事務所との行き来がある。	年6回の地域ケア会議に出席し、困難事例を検討すると共に民生委員や他職種との繋がりを深め円滑な情報交換や連携を図っている。今年度は地域包括支援センターと共に認知症サポーター養成実習を受け入れ認知症の理解と介護の実践、認知症を地域で支える取り組みに協力した。		

6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>帰宅願望強い利用者が入居当時は玄関ドアのみ施錠していたが現在は施錠しておらず、言葉かけにて対応出来ている。身体拘束に関しても行っていない。</p>	<p>身体拘束を行うことによる弊害を認識し、入居者の不安に寄り添い見守りながら、行動障害がある入居者の生活歴や生活リズム、その原因や理由を職員と共に共有し、身体拘束ゼロが実践されている。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>虐待に関しては肉体的虐待は勿論だが、ふと何気ない言葉にも注意を払いスタッフ全体で認識しあっている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>成年後見制度等実際に行っている役員が居ると包括支援センターに解らないこと等、いつでも相談できる体制をとっている。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入居者、家族の不安、疑問点を納得できるまで話し合いをしてから契約解約の締結を行っている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>入居者、家族の不安、疑問点を納得できるまで話し合いをしてから契約解約の締結を行っている。</p>	<p>家族の面会時には日頃の様子や変化を伝えると共に、会話の中から言葉の裏や行動の本音を理解し、対処できる場合はその場で対応している。じゃがほりや敬老会など家族に参加して頂いた際には、気軽な意見を聞くことができ運営にも活用されている。</p>	
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>毎月のスタッフ会議や日常的にも意見を言いやすい様な雰囲気、関係づくりを心掛けている。</p>	<p>日頃から共にコミュニケーションが取れ、意見が言いやすい関係性にある。介護技術や接遇マナー等、ケアマネや長期勤務職員により新人指導など相談先も複数準備されている。更なる支援の充実に向け、職員スキルの向上や今後の方向性についても検討中である。</p>	<p>他職種からの採用により多様な専門性を持つ職員が多いことはホームの魅力である半面、職員の知識や経験が異なり人材育成に苦慮されている。積極的な研修の参加や職員の能力・仕事ぶりを評価し、職員配置や人員体制を整え更なる支援の充実を図られることを期待します。</p>

12	<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>条件や職場環境に関しては、事業所ができる範囲でできる限り、対応できるものに関しては努めて努力している気持ちでいる。</p>		
13	<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>勉強会の参加や接遇やメンタル的なセミナーへの参加、スタッフ会議等でも内部研修を行っている。</p>		
14	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>「スタッフの良質なケアの均一化」をホーム内のみではなく、近隣施設の均一化も考えて連絡協議会等にも参加して相互訪問や研修を行っている。</p>		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入居前に訪問し、時間がとれる場合施設見学していただきその時に疑問、不安、要望等を聞き取り入居時に混乱が起きないような支援を行っている。</p>		
16	<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>ご家族にもお会いして、見学もしていただいて施設を理解していただき、疑問、不安等がない状態での関係づくりに努めている。</p>		
17	<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>本人、家族にとってベターなサービスの利用を心掛け、即入居と言う事は考えず、他のサービスが妥当と思われる場合には他事業所と一緒に探している。</p>		

18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「入居者も職員も幸せに、快適に過ごせる施設」の思いがあるため、互いに労り笑いあえる暮らしを大切にしている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族をないがしろにせず、入居されてからの家族と本人の関係が希薄にならないよう、家族への声かけを行っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	どうしても入居されると関係が希薄になりがちな為、自由な時間双方無理のないよう考えてお邪魔したりして関係が途切れないうにしている。	入居者の重度化に伴い友人の訪問を受け入れることが多く、その際にはゆっくり寛いで話しができるように配慮されている。行きつけの美容室や地区の敬老会で一緒に出向き、友人との再会や雰囲気を楽しむ個別支援もされている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	それぞれ、育ってきた環境、そりが合う合わないがありその人に合う利用者と関わりをもっていけるようトラブルにならないようスタッフ全体で努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用が終了しても、巡り合えた「縁」を大切にしていきたいと思っており、相談等あるときは支援を行い、できる限り「縁」が切れないように努めている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居者の「今」を大切にしながら、困難な場合も、とりあえず希望や意向を実行してみるよう心掛けている。	入居者の生活に触れながら、個々の性格に応じた声かけを行い何気ない動作や仕草から本音を引き出す支援をされている。入居者の「よくなりたい」思いに添って、食事の準備や洗濯等自分の役割を担っていただき、今の生活が長く続けられるよう支援されている。	

24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や本人に確認しあい、その方にとってサービス内容が合っているか検討している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の過ごし方、状態等、観察し問題がある場合には本人の負担にならない程度から少しずつ変えていき、有する力が損なわれないように努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者、家族との日常の会話や気づきの中から意向を把握し会議で話し合いを持ち、計画プランを家族に見ていただき、ご意見を頂く形で介護計画を作成している。	本人や家族の意向を尊重し最善の支援方法を職員間で検討し立案されている。入居者の課題や支援内容は毎日実施状況を個別に記録し定期的に経過状況や記録の着眼点を確認しながら追加や変更等を行い次の計画へと繋げている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護日誌やチェック表に記入し、スタッフ全体が共有し、気づきに関しては会議や申し送り時に話し合い見直しをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	かかりつけの病院受診の支援。敷地内におけるプレハブでは会議や職員の行事の練習の場、地域や他事業所の依頼に応じて提供している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	警察、消防との連携、地域青年団との協力、地区の学校との福祉の場を提供している。		

30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医への定期受診支援を行い、受診の際にはチェック表等持参し、主治医に提示している。結果に関しても家族にも話すよう心掛けている。	入居前のかかりつけ医を継続受診し、家族へ状態報告を行うと共に受診結果や注意点をケアノートに記録し、職員間で共有し適切な医療にも繋げている。入居者によっては往診もありホームと医師による連携が図られている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者とのかかわりの中で気づいた点は医療機関と連携を取り、適切な対応の看護を受けられる関係づくりをしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際、スタッフは病院関係者と密に会い情報交換や相談等して協力関係をとれるように心掛けている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族の要望にこたえたいと思っており、ホーム内においての介護支援に努め、消防の方とも連携を取り、スムーズな対応がとれるようにしている。	現在も透析受診や、ペースメーカー使用者の支援もあるが、状態が急変した際は家族との話し合いの結果、医療機関での看取りが主となっている。今後は更に職員の基礎知識を深め、態勢を整えながら家族の要望に応えたいとされている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防主催の救急法の研修や消防訓練時に救急法のアドバイス等を消防署から受けている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。また火災等を未然に防ぐための対策をしている。	スタッフが消防学校の訓練に参加。消防署、及び地域の消防団と災害時の避難および消火時の水源確保等について話し合いの場を設けている。	年に2回の消防訓練においては、消防署職員や地域の消防団立会いの下で実施され、通報や初期消火、避難誘導の手法の確認を行った。地域の消火栓はホームより離れた場所に位置している為、近隣施設の貯水タンクを使用できるよう地域の消防団と共に周知されている。	消防学校や普通救命講習への参加等防災意識を持って取り組まれているが、訓練実施の振り返り記録がなく職員周知も曖昧な状況であった。入居者にも喫煙者がいることから日頃の火元の確認や振り返りの徹底を促したい。

IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	家族、来訪者の声に耳を傾け、スタッフの言葉遣い、利用者に対する接し方を確認しあう機会を設けている。特に利用者に対する話し方には気をつけるようにしている。 声かけの仕方やトーン、介護者の視線等、接遇マナーをお互いに注意喚起し、何気ない言葉かけも言葉の虐待にならないよう配慮されている。居室は入居者の家である意識を持ち、入室の際には必ずノックするなど「自分の家に勝手に人が入ってきたらどう思うか」と問いかけ振り返りを行っている。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の中での思い出の散髪や買い物等の訴えがあった場合には対応できるように努めている。
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の流れはある程度決ってはいるものの、ベースは業務主体ではなく、利用者主体で考えるように心掛けている。
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみやおしゃれに関してはある程度、スタッフの援助にて声かけや手伝いながら行うようにしている。
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	施設で採れた野菜を使ったり、可能な方にはお手伝いして頂き、時期を見ながら外で花や緑を見ながらの食事会を行い食事を楽しめるようにしている。 ホームの自家菜園には入居者と共に季節野菜を栽培し、季節の移ろいや収穫の喜びを共有している。また、旬の物を食べることに強いこだわりを持ち、ついた餅や秋刀魚を焚火で焼くなど食事と合わせた野外活動も多く、入居者も大いに楽しんでいる。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	病院の行っている食事に対する勉強会への参加や解らない時は栄養士に連絡を取り、疑問点は取り除くようにしている。

42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に個々の口腔ケアに関して行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄パターンをみつけて極力最低限のオムツ使用のできるよう下着にパット使用等に対応したりしている。	日常的に立ち上がりや立位保持のリハビリを行いながらトイレでの排泄を基本とし、入居者の生活に対する自信を取り戻す支援がなされている。また、体調や状態に応じたパットやオムツの使い分けもあり、常に入居者に応じた対応を検討されている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ある程度の運動や水分補給、食物繊維等の含まれる食事づくりを心掛けている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	利用者の希望に応えられるよう毎日の入浴が可能なように入浴日は毎日としている。状況に応じてはシャワー浴や清拭を随時行っている。	入居者の生活リズムや希望に添って、対応され寛いだ気持ちで入浴することができる。敷地内別棟に石造りの露天風呂もあり、夏場には景色を眺めながら温泉気分を味わえ入居者の楽しみにもなっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活パターンを把握し、その人に応じた休憩や睡眠時間をとれるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬に関する重要性については会議等で話し合いの場を設けている。服薬の支援も誤薬等無いようにスタッフ全体で声かけ、確認に努めている。		

48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの能力に応じて手伝い等自らして下さる。嗜好品についてはタバコ決った本数を喫煙場所で吸うようにしている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族に声かけし、外泊が可能な方は外泊していただいたり、受診の帰りに買い物、理美容室等に行ったりしている。	職員と共に毎日ホーム周辺の散歩に出かけたり、庭先へ花摘みや野菜の収穫に出かけることもある。趣味活動や楽しみを持つことで日常生活の活性化や、入居者の自信や心の健康にも繋がっている様子が窺われた。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	スタッフと一緒に近所のスーパーに買い物や、欲しいものがあるときはお金の重要性を話し合いながら支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙に関しては自由にかかけたり、出せるようにしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温かい雰囲気づくりや、窓の外をみると庭園があり、四季を感じられるようにしている。	職員によって手入れされた共用空間は清潔感があり、食卓を照らす暖色系の明かりが温かみを添え、食後も職員と共に会話を楽しみ寛いで過ごす様子が見受けられた。冷蔵庫やポットは自由に使用でき、自分でお茶を注ぐ姿から入居者の当たり前の生活を大事にされている様子が窺われた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間の中でもソファや食事テーブル、和室等あり思い思いに過ごせるようにしている。		

54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個人差があり個々の思いがある品物が持ち込まれているが、人によっては持ち込み品が少なく、その場合には職員の手作りの飾り付け等行い工夫をしている。	居室には使い慣れた家具や手回り品が持ち込まれ、寝具類も入居者の好みの物が使用されており思い思いの部屋作りがなされている。車いすの高さに柵が手作りされている居室もあり、庭先で摘んだ花を自ら花瓶に生け楽しまれている姿が印象的であった。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やトイレには札をかけているが、覚えておられる方も居るが入居されて間もない方にはスタッフが気掛けてさりげなく声かけをするようにしている。		
V アウトカム項目					
56		職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57		利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)		○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58		利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59		利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)		○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60		利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)		○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61		利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)		○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62		利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)		○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63		職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)		○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

## 1 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「入居者も職員も幸せに、快適に過ごせる施設」を目標に自分の身内を入居してもらえるグループホーム作りをスタッフ全員と確認しあっている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	住宅街とは言えない環境だが普段通られる方への挨拶、施設行事の地域自治会への声かけ、逆に地域自治会からの声かけにも協力している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地区の小中学校の福祉体験学習の受け入れや地元老人会の慰問、相談等受けている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の頻度で参加メンバーと会議を行っている。		
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	入居者の中で公的制度を利用されている方がおられるので相談、連絡等で福祉事務所との行き来がある。		

6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>帰宅願望強い利用者が入居当時は玄関ドアのみ施錠していたが現在は施錠しておらず、言葉かけにて対応出来ている。身体拘束に関しても行っていない。</p>		
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>虐待に関しては肉体的虐待は勿論だが、ふと何気ない言葉にも注意を払いスタッフ全体で認識しあっている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>成年後見制度等実際に行っている役員が居るとの包括支援センターに解らないこと等いつでも相談できる体制をとっている。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入居者、家族の不安、疑問点を納得できるまで話し合いをしてから契約解約の締結を行っている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>入居者、家族の不安、疑問点を納得できるまで話し合いをしてから契約解約の締結を行っている。</p>		
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>毎月のスタッフ会議や日常的にも意見を言いやすいような雰囲気、関係づくりを心掛けている。</p>		

12	<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>条件や職場環境に関しては、事業所ができる範囲でできる限り、対応できるものに関しては努めて努力している気持ちである。</p>		
13	<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>勉強会の参加や接遇やメンタル的なセミナーへの参加、スタッフ会議等でも内部研修を行っている。</p>		
14	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>「スタッフの良質なケアの均一化」をホーム内のみではなく、近隣施設の均一化も考えて連絡協議会等にも参加して相互訪問や研修を行っている。</p>		
<p>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</p>				
15	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入居前に訪問し、時間がとれる場合施設見学していただきその時に疑問、不安、要望等を聞き取り入居時に混乱が起きないような支援を行っている。</p>		
16	<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>ご家族にもお会いして、見学もしていただいで施設を理解していただき、疑問、不安等がない状態での関係づくりに努めている。</p>		
17	<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>本人、家族にとってベターなサービスの利用を心掛け、即入居と言う考えず、他のサービスが妥当と思われる場合には他事業所と一緒に探している。</p>		

18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「入居者も職員も幸せに、快適に過ごせる施設」の思いがあるため、互いに労り笑いあえる暮らしを大切にしている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族をないがしろにせず、入居されてからの家族と本人の関係が希薄にならないよう、家族への声かけを行っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないうよう、支援に努めている	どうしても入居されると関係が希薄になりがちを、自由な時間双方無理のない様考えてお邪魔したりして関係が途切れないうようにしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	それぞれ、育ってきた環境、そりが合う合わないがありその人に合う利用者に関わりをもっていけるようトラブルにならないようスタッフ全体で努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用が終了しても、巡り合えた「縁」を大切にしていきたいと思っており、相談等あるときは支援を行い、できる限り「縁」が切れないう様に努めている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居者の「今」を大切にしながら、困難な場合も、とりあえず希望や意向を実行してみるよう心掛けている。		

24	<p>○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>家族や本人に確認しあい、その方にとってサービス内容が合っているか検討している。</p>		
25	<p>○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている</p>	<p>個々の過ごし方、状態等、観察し問題がある場合には本人の負担にならない程度から少しずつ変えていき、有する力が損なわれないように努めている。</p>		
26	<p>10 ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>入居者、家族との日常の会話や気づきの中から意向を把握し会議で話し合いを持ち、計画プランを家族に見ていただき、ご意見を頂く形で介護計画を作成している。</p>		
27	<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>介護日誌やチェック表に記入し、スタッフ全体が共有し、気づきに関しては会議や申し送り時に話し合い見直しをしている。</p>		
28	<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に見えるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>かかりつけの病院受診の支援。敷地内におけるプレハブでは会議や職員の行事の練習の場、地域や他事業所の依頼に応じて提供している。</p>		
29	<p>○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>警察、消防との連携、地域青年団との協力、地区の学校との福祉の場を提供している。</p>		

30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>かかりつけ医への定期受診支援を行い、受診の際にはチェック表等持参し、主治医に提示している。結果に関しても家族にも話すよう心掛けている。</p>		
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>利用者とのかかわりの中で気づいた点は医療機関と連携をとり、適切な対応の看護を受けられる関係づくりをしている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院した際、スタッフは病院関係者と密に会い情報交換や相談等して協力関係をとれるように心掛けている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>家族の要望にこたえたいと思っており、ホーム内における介護支援に努め、消防の方とも連携をとり、スムーズな対応がとれるようにしている。</p>		
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>消防主催の救急法の研修や消防訓練時に救急法のアドバイス等を消防署から受けている。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。また火災等を未然に防ぐための対策をしている。</p>	<p>スタッフが消防学校の訓練に参加。消防署、及び地域の消防団と災害時の避難および消火時の水源確保等について話し合いの場を設けている。</p>		

IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	家族、来訪者の声に耳を傾け、スタッフの言葉遣い、利用者に対する接し方を確認しあう機会を設けている。特に利用者に対する話し方には気をつけるようにしている。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の中での思い出の散髪や買い物等の訴えがあった場合には対応できるように努めている。
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の流れはある程度決ってはいるものの、ペースは業務主体ではなく、利用者主体で考えるように心掛けている。
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみやおしゃれに関してはある程度、スタッフの援助にて声かけや手伝いながら行うようにしている。
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	施設で採れた野菜を使ったり、可能な方にはお手伝いして頂き、時期を見ながら外で花や緑を見ながらの食事会を行い食事を楽しめるようにしている。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	病院の行っている食事に対する勉強会の参加や解らない時は栄養士に連絡を取り、疑問点は取り除くようにしている。

42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>毎食後に個々の口腔ケアに関して行っている。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている</p>	<p>排泄パターンをみつけて極力最低限のオムツ使用でできるよう下着にパット使用等で対応したりしている。</p>		
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>ある程度の運動や水分補給、食物繊維等の含まれる食事づくりを心掛けている。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>利用者の希望に応えられるよう毎日の入浴が可能なように入浴日は毎日としている。状況に応じてはシャワー浴や清拭を随時行っている。</p>		
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>個々の生活パターンを把握し、その人に応じた休憩や睡眠時間をとれるようにしている。</p>		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>個々の薬に関する重要性については会議等で話し合いの場を設けている。服薬の支援も誤薬等無いようにスタッフ全体で声かけ、確認に努めている。</p>		

48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>一人ひとりの能力に応じて手伝い等自らして下さる。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>家族に声かけし、外泊が可能な方は外泊していただいたり、受診の帰りに買い物、理美容室等に行ったりしている。</p>		
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>スタッフと一緒に近所のスーパーに買い物や、欲しいものがあるときはお金の重要性を話し合いながら支援している。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>電話や手紙に関しては自由にかけたり、出せるようにしている。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>温かい雰囲気づくりや、窓の外をみると庭園があり、四季を感じられるようにしている。</p>		
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>共有空間の中でもソファや食事テーブル、和室等あり思い思いに過ごせるようにしている。</p>		

54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個人差があり個々の思いがある品物が持ち込まれているが、人によっては持ち込み品が少なく、その場合には職員の手作りの飾り付け等行い工夫をしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やトイレには札をかけているが、覚えておられる方も居るが、入居されて間もない方にはスタッフが気掛けてさりげなく声かけをするようにしている。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)		1. ほぼ全ての職員が
		○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない